

12月 定例自然観察会 実施報告書

2024年12月16日(土)

実施日 2024年12月14日(土)
テーマ 初冬の道場 ～百丈岩の麓を目指して歩く～
コース 道場駅前一武庫川一船坂川一百丈岩登山口一復路は少し田舎道を一道場駅
集合 9時30分 JR福知山線 道場駅前
解散 14時半 道場駅前
参加者 ビジター19名、会員1班21名、他班会員7名



道場は神戸市の北の外れ、ほぼ三田市の手前に位置し、初めて訪れる人には神戸市内だとは思えないのどかな田園風景が広がる。近くには「不動岩」「烏帽子岩」「百畳岩」などロッククライミングのスポットが多く、朝9時ころには岩登りの装備の人たちも多い。

ビジターの方が揃ってから、道場という名前の由来、近くの鐺射寺(かぶらいじ)の由来などの説明の後、観察は5グループに分かれて各班ごとに軽く準備運動の後、各班に数名のスタッフで案内を行う。

12月に入り秋も深まり、冬至も近づいてきた季節であったけど、幸いにも陽射しが出ており、冬の観察には絶好の天気であった。

まずはチタン工場に出入りするトラックに気をつけながら、武庫川を渡る。手前にネナシカズラが有るが付近は少し危険なので、詳しい説明は川を渡りきってからとする。武庫川右岸に渡ってからがスタッフの説明の本格スタート。まずはネナシカズラとアメリカネナシカズラとの違いとその不思議な生態を自作の模型を使って説明する。この場所は安全な広場になっているので、河原を見回しての観察にも適した場所であった。河原に多いアキノレの様子や、ススキとオギの違いについての説明をした。六甲山中ではほぼすべてススキなので、河原に広がるオギの白い穂を見ながら、区別するポイントなどを説明する。ススキにはノギが飛び出しているのをルーペで確認してもらった。コセンダングサとコバナセンダングサの説明をした。ネズミモチとトウネズミモチの違いでは、このコースにはネズミモチが見当たらなかった所以他で見つけたものを取ってきての実物比較も行った。

葉はほぼ枯れかけてはいても、強い蔓が伸びているクズの説明、いろいろな活用方法などの説明もした。



田んぼの畔には植えられた彼岸花の葉が出揃っていた。ヒガンバナを畔にうえるのはモグラが嫌うからだとか救荒植物の一つであったことなどの説明をした。ヤハズソウの葉をちぎってみたり、ニレの独特な鋸歯を直接触ってみたりもできた。

紅葉が進んでいる中で、ヤマコウバシの茶色は独特な色でよく目立った。いろいろな呼び名が有ることや、広島県では受験に落ちないお守りとして販売されていることなども説明に加えた。

溝端にはハキダメギクやミゾソバがまだ花をつけていた。イヌタデは花も残っていたが、手で揉むと独特な形をしたツヤツヤの黒い種を観察することもできた。

ナワシログミの小さい葉には、鱗状毛がたくさんついていて、倍率を高くして観察するときれいなクリスタルガラスのような形が見られた。アカメガシワの低木が複数生えている場所では冬芽が大きくなってきていて美しい裸芽を葉脈までしっかりと確認することができた。どこにでもあるアラカシには、シラカシとの違いを葉による同定ではなくドングリによる違いで確認した。

船坂川沿いは道が細くなる。百丈岩・鎌倉挾に向かう車がたまに通ると道の端にへばりついて避けなくてはならず安全には気を使った。

大きなヨウシュヤマゴボウのえんじ色の幹が目立っていてビジターの方は驚いていた。イヌザンショウの大きなトゲも皆さん驚いていた。サンショウやカラスザンショウとの違いも説明できた。

山の紅葉は見頃を少し過ぎていたかもしれないが、コナラの赤や茶色の大きな木、クヌギ・アベマキの茶色・ヤマコウバシの独特な色・ダンコウバイのきれいな黄色・ガンピの黄色などがまだまだ美しかった。ダンコウバイの独特な冬芽やガンピでは名塩和紙の説明をした(水上勉「名塩川」による)



凝灰岩の露頭付近では、武田尾や百丈岩に多い溶結凝灰岩の説明とともに、そういう岩場を好む植物(イワヒバ・ツメレンゲ・イブキシモツケ)も観ることができた。

12時過ぎには百丈岩登山口(鎌倉峡入口)に到着し、グループごとに昼食を取った。百丈岩の説明や看板を見て、みなさん双眼鏡で百丈岩を見あげたが、この日は岩に張り付くクライマーは確認できなかった。ここにトイレが有るのはたいへん助かった。

午後は、コウヤボウキの説明でスタート。この時期、花が無いのは残念だが、独特な生態や高野箒の実物を示したりして説明することができた。ヤマガキを見上げての渋柿の渋の原因と生きるため戦略の説明や、渋を抜く色々な方法や、決してタンニンが消えてなくなるわけではない、などの説明をした。オケラはほぼ枯れてはいたが、その独特な魚の骨状の部分や、年末の八坂神社のオケラ火などの説明も加えることができた

その他、センニンソウのひげを確認したり、マルバアオダモを水につけると紫外線で青く見える実演、マユミ・コマユミの違い、ヒイラギも老木になると鋸歯のない歯が多くなる様子などを観察しながら、往路とは少し違ったコースに入っていた。

田んぼ脇の道ではワレモコウが複数見られた。独特な花の咲き方や葉の様子などを観ることができた。川沿いの大きなセンダンの木には多くの実がついていて、中の種の独特な形も観察することができた。ツルウメドキも確認した。

予定ではガガイモなども説明する予定だったが、思ったよりも季節が急に進んだり、畔の草刈りで消滅していたりで、省略したのもあった。

予定通り、14:30頃には各グループとも道場駅前に戻ることができ、観察会は終了、班ごとに解散した。

参加者からは「今までよりも中身の濃い観察会でした」というような感想もいただきました。

報告者文責 1班 久保田裕仁

